



日本のみなさんへ

11月に清里で行われる Art of Hosting に是非とも参加して頂きたく思い、招待状を書かせて頂きました。今年が明けて早々、Japan AoH Community はますます大きくなってきています。様々な人生を歩んでおられる方々が、世代を超えて手を取り合っています。なぜでしょうか。

私達は、今こそ互いにとって意義のある会話を引き出すための安全な場を生み出すべきであるという信念を共有しています。今こそ互いに話をし合い、互いに聞き合う。そうすることで、日本で新たな可能性を拓いていくために今後私達が進めていくであろう活動が、より具体性をおびていくことでしょう。この作業の一部に関われることに深い喜びを感じております。

私がどのような人間であるか、少しだけお話ししましょう。私はここ5年間、Berkana Institute (www.berkana.org) の共同主宰をしており、元気で活発なコミュニティーを作ろうとしている世界の人々と活動する機会に恵まれました。いろんな意味で、私がこの仕事をするきっかけとなったのは、40年ほど前、私が早稲田大学の学生だった頃に遡ります。

1970年8月下旬、明け方6時過ぎに私は旧羽田空港に降り立ち、気温が既に35℃を超え、湿度もほぼ100%という猛暑に見舞われました。私は、何がなんだかかわからないような千変万化するまぶしいネオンサインや、理解不能な言語をしゃべる人達と向き合うことになったのです。この異国の地が、それから一年に渡って私の居住地となり、そしてその後生涯に渡って、私自身を形成する場所となったのです。

40年前に私が目にした日本の姿はほとんど見当たりません。3世代、ましてや4世代で暮らしている人達はほぼ存在しないでしょう。お見合いをすることも不可能に近いですね。終身雇用も単なる遠い記憶になりつつあります。54年間続いていた自民党政権もついに途絶えました。このような変化は目に見えやすいものです。目に見えにくいものといえば、日本社会の現状や展望についてあらゆる分野、世代の人達が立ち止まり考えようと、水面下で仲間が集うようになったことではないでしょうか。これこそ、あなたたち皆がやっておられることだと私は思っております。150年前の明治維新を想起させるようなわくわくする時代がきました。

このような、日本で進められている水面下の動きは、私に関わらせてもらうことのできた世界中の国々で行われている動きと類似しています。新しい領域の可能性が日本で開拓されつつあり、そのひとつが日本でのAoHの活動です。

今年の11月の清里で私達はAIやワールドカフェ、オープン・スペース・テクノロジー、サークルなどの手法を学びます。豊かな会話を持つことで、ひとりひとりがやるべき事に対して明確さや、勇気、コミットメントを生み出すことができるでしょう。また、ひとりひとりが次にどういったステップが必要になるのかも明確になるでしょう。皆さんが、我々とこのような機会を一緒に過ごそうと考えてくださっていることを嬉しく思います。ぜひ一緒にしましょう！

敬意と共に、
ボブ・スティルガー (bob@berkana.org)